

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【島小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	多くの児童が、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられる。個人差も大きいことから、SA等による個別指導を充実させたり、ICT活用状況のデータ等を効果的に活用したりしながら、個々の対応も進めていく必要があると考える。特に、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、多くの学年で課題があるため、重点内容として取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	校内の学校課題研究により、話し方や聞き方についての校内での指導の統一を図ってきた。引き続き、校内で指導方法の統一を行い、思考の深化につながる話し合い活動を実践していく。算数では、「データの活用」について課題があることから、そうした課題を意識しながら取り組み機会を多くもたせていくことで改善を図ってきたい。
主体的に学習に取り組む態度	今年度は、学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れてきたので、次年度は、活用方法について質の向上を図っていく。また、学ぶ楽しさを実感する授業が行えるように児童の声に耳を傾けながら、適切にフィードバックを行い、学習意欲の向上を図ってきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度の全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、昨年度から2ptUPをする。	⇒ 朝の基礎基本の時間を活用し、言語活動の基礎となる問題に定期的に取り組む時間を設ける。全ての教職員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、問題の傾向等について全職員で把握し、日頃の授業に生かす。
思考・判断・表現	(R5年度の全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、昨年度から2ptUPをする。	⇒ 学校課題研究の「話し合い部」を中心に、話し方や聞き方についての校内での指導の統一を図る。「みんなではな島小」：グループで話し合う流れ。こう島小：話すときの約束や聞くポイントの提示)
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の学校評価の児童アンケート「進んで学習に取り組んでいる」の項目において、R4年度から1ptUPをする。	⇒ 学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れることで、個別最適な学びを実現する。各教科において、単元の導入について工夫をし、主体的に学習に取り組めるようにしていく。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	学年によってばらつきがみられる。3年・6年は、どの教科でも数値が、全国平均や市平均と同等または、上回った。一方で、4年・5年は、ほとんどの教科で市平均を下回った。定期的朝の基礎基本の時間を活用して、言語活動の基礎となる問題に取り組む時とできたが、内容については拡充を図りたい。	B
思考・判断・表現	「知識・技能」と同様、学年によってばらつきがみられる。3年・6年は、どの教科でも数値が、全国平均や市平均と同等または、上回った。一方で、4年・5年は、ほとんどの教科で市平均を下回った。話し方や聞き方については、学校課題研究の「話し合い部」をもとに校内で指導の統一を図ることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	生活習慣に関する調査「教科への興味・関心に対する質問項目」では、肯定的な回答の割合が市平均を下回っている学年が多い。学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れることで、興味・関心を高めてきた。活用頻度は、昨年度のおよそ3倍以上になった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査・国語について、全ての領域で全国平均を上回った。特に、「情報の扱いに関する事項」は10ポイント程上回っている。算数についても、全ての領域で全国平均を上回った。特に「A数と計算」は5ポイント程上回っている。問題別に見ると、「分配法則を用いたりして答えを求める問題」は全国平均を下回った。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査・国語について全ての領域で全国平均を上回った。ただ、「文章を読み取り、その問題点と解決方法を書く問題」では、全国平均とほぼ同じ正答率であった。算数について、全ての領域で全国平均を上回った。問題別に見ると、「テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と特徴を求める問題」は全国平均を下回った。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は89.3%と全国平均を大きく上回った。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の肯定的な回答の割合は、88.4%と、教科横断的な取組を積極的に行っていることが成果として表れた。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	各教科において市平均を上回った。しかし、国語の「読むこと」及び算数の「図形」に課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、算数は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語での肯定的回答の割合は市平均を下回った。	小4	各教科において市平均を下回った。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数の「数と計算」「変化と関係」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、国語は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、算数での肯定的回答の割合は市平均を下回った。
小5	各教科において全てで市平均を下回った。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数の「数と計算」「データの活用」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、理科は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語・算数・社会での肯定的回答の割合は市平均を下回った。	小6	社会は、市平均を上回った。国語・算数・理科は、市平均を下回った。国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」「変化と関係」、理科の「地球を柱とする領域」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、社会と理科で、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語・算数で肯定的回答の割合は市平均を下回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【島小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着が図ってきたが、個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」や「スタサブ」等の個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、「国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられたため全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。	
思考・判断・表現	学習過程を見直し、活動の中に共同編集を位置付け、計画的に協動的な学びを通して考えたり、表現したりする。教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問い、資料の見方を高めていく力を伸ばす発問を意識したい。また、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 多くの児童で、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられる。(特に、漢字や計算) <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間が十分に確保されていない。</p>	⇒ ・低学年は「ドリルパーク」中・高学年は、「スタサブ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保する。【週3回以上、授業での実施】 ・児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1回程度】。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の正答率が低い。 <指導上の課題> 児童が自己表現する場面が少ない。 授業の中で児童が自己表現する場面が少ない。また、それに対して十分な評価ができていない。</p>	⇒ ・活動の中に共同編集(Canva等)を位置付け、協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【R5年度さいたま市学習状況調査「学級の友達とて話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が92%以上】(R4年度89%)

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	・低学年は「ドリルパーク」中・高学年は、「スタサブ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む、基礎基本の定着を図る活動を継続できた。 ・朝の時間や授業の前後、長期休業中の課題、日頃の宿題や自習の時間にも積極的に取り入れることで、取り組む時間を確保することができた。
思考・判断・表現	C	・活動の中で共同編集(Canva等)の位置付けが少しずつ広がり、協動的な学びにつなげられる機会が増えてきている。引き続き校内研修等を通して実践力をさらに身に付けていきたい。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達とて話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が91%以上】(R5年度92%)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語の文の中における主語と述語との関係を捉える問題に課題がみられた。回答類型を見てみると、主語を形式的に判別しているだけで、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることができていない児童がおよそ35%いた。また、選択式の問題であるにも関わらず無回答児童がおよそ4%と多い。 ・算数の除数が小数である場合の除法の計算(540÷0.6)について課題がみられた。回答類型を見てみると、正答「900」に対し、「90」と回答している児童がおよそ30%いた。これは、除数の0.6のみ10倍して整数にし、540÷6を計算していることが原因と考える。また、無回答の児童もおよそ5%と多い。	
思考・判断・表現	・国語の目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題に課題がみられた。回答類型を見てみると、相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にしていることを捉えることができていない児童がおよそ25%いた。 ・算数の計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題がみられた。回答類型を見てみると、説明不十分な回答が多く見られた。この問題に限らず、全体的に記述式の問題の正答率がやや低い傾向にある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられた。漢字や言葉の意味を考えて使うことができていないと考えられる。 ・「数と計算」の項目において課題が見られた。いろいろな数の計算、1あたりの量や四則計算のきまりを正しく取り扱うことなど、計算の方法だけでなくその意味を考える活動を大切にしていきたい。	
思考・判断・表現	・理科「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が低く、同領域の異集団比較において、市平均の結果を5、6年とも下回った。実験用具の正しい取扱いや理科の用語の意味理解に課題見られる。同じ実験を行ったにもかかわらず他のグループと違う結果になった場合や、実験を複数回行ったときにばらつきが生じた場合、その要因を見いだす際に器具の取扱いについて再確認したり、実験の方法を検討し、必要に応じて改善する学習活動を増やしていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	・授業の始めや終わりに「ドリルパーク」や「スタサブ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む、月に1回程度、個別に学習計画を立てるまでの一連の流れを形成することができた。	変更なし
思考・判断・表現	C	・まだまだ、活動の中に共同編集を位置付けることができておらず、協動的な学びにつなげることができていない。校内研修を通して、実践力を身に付けていきたい。	・協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるように、活動の中で共同編集を実施する【各単元で1回以上実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)